投票番号
11

創作竹箸工房「MARIKOの家」季節を掬う素麺箸の展示会

事業のねらい

工房併設のギャラリーで作成した竹箸の展示会を開催し、次のことを実現する。

- 地域資源を活用する竹箸の魅力を伝え、日本の伝統文化を再認識する機会とする。
- 交流の場として、内浦での新たな賑わいを創出する。

第２号様式

事　業　計　画　書

事　　業　　名	創作竹箸工房「MARIKO の家」季節を掬う素麺箸の展示会
実　施　場　所	沼津市内浦重寺 208-15
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 令和　８年　４月　13　日　　～　　令和　８　年　　７月　　31 日

◎事業概要

※事業の概要を 100～200 字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

箸はお祝いや用途に合わせて種類があり、若年世代が割り箸など使い捨てが当たり前となる中、事務所の一部を活用して地域資源の竹を使った創作箸でSDGｓへの取り組み。

手作りの箸を手に取って個人の手に合わせた長さや太さなどを体感できる場として、素麺など季節の創作箸など従来のイメージを変えた箸の新たな愉しみを提供し、国内外の観光客や次世代へ文化の継承と普及、交流の場を創出する。展示期間は1カ月位を予定。

◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

竹の箸の制作を始めて４0年余り経ち、数年前にかつて千利休が花器として重用した江川邸に植生する「韮山竹」で箸を制作して地域の人とワークショップを実施する機会があり、箸の役割りや存在意義を改めて考えるきっかけとなった。

地域資源の竹を使い、少子高齢化で竹林が荒れている現状で整備などの地域課題対策に加え、展示を通して使う人の手の大きさや使い勝手に合わせた長さ、微妙な持ち盛りなど、手作りならではのしっくりと手になじむ心地よさ、食事を愉しむ道具であることを多くの人に周知し、体感してもらいたい。

日本の伝統文化である箸の良さの見直しと美しさの再認識を通して、日々の食事で口にする箸だからこそ、塗料などを使わない安心で安全な竹の素材の箸を使用することの大切さ、SDGｓの側面から使い捨ての割り箸ではない、しっくり手に馴染む「My 箸」の意識付けと、割り箸など使い捨て志向に歯止めを掛ける一助となること。

実際に箸に触れて、使う人の手に合った重さや長さを体感することで、箸の存在意義を見直すきっかけ、展示会による関係人口を増やすことで内浦地区の活性化につなげたい。

◎実施内容

日　　程	実施項目・作業項目
令和8年４月13日～7月31日	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載してください。
4月	事務所の展示スペース等の改装・作品制作　実施スケジュール 作成
5月	作品・チラシやはがきなど展示案内を制作・販路開拓の営業活動
6月	作品制作・チラシやはがきなど広報開始（チラシ配布・ＳＮＳ発信）
7 月	作品制作、展覧会開始～振り返り

<table>
<tr><td colspan="4">※事業の実施により、期待される効果を記載してください。
・箸の文化の再認識と継承。
・展示会を通じて箸に触れる機会を持つことで、日常生活や食文化の魅力を再発見し、次世代へと伝えていく土壌が育まれる。
・ 事務所を展開状の場として開放することにより、地域住民との交流の場として地域の活性化。
・活用できていなかった地域資源の竹の新規需要の創出 。
・付加価値が生まれることによる、SDGｓへの意識の向上 。
・竹林の整備による地域課題の削減 。
・内浦地区から発信する未だ知名度の低い竹の箸ブランド価値向上による関係人口の創出。</td></tr>
<tr><td>成果指標</td><td>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。
展示中来場者数：50人程度
周知企業：3社程度
チラシ設置：5社程度
竹箸のブランド価値向上
⇒新規販路・需要の開拓
SDGｓな竹林整備と廃棄量削減
⇒地域課題の解消</td><td>指標の
検証方法</td><td>※左記指標の検証方法を記載してください。
来場者数の記録
来場者への聞き取りで満足度や関心を数値化
知人をはじめ協力企業等の把握
制作および売上の実績値</td></tr>
</table>

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<table>
<tr><td>社会的
必要性</td><td>※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。
住環境や生活様式の変化により箸文化の衰退が進み、スプーンや割り箸等の流用で若年世代にとって箸の存在意義が希薄となり、箸離れが目立つ。
展示会を開き、改めて季節や素材と使い勝手に合わせた創作箸の認知度が高まることで、箸の魅力や食文化の愉しみを再認識する役割を担う。
地域の人や観光客などと交流する場の提供により、箸の文化の継承と食文化への関心を喚起する社会的意義、地域全体の活性化が進むことを狙う。
地域資源を生かした箸のブランド価値や知名度の向上を目指す取り組みは、内浦から発信する新たな特産品の魅力づくりとして非常に有益である。</td></tr>
<tr><td>地域性</td><td>※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。
少子高齢化が進む中、竹林の整備という地域の課題に根ざした取り組みであり、かつて設計事務所であった場所を活用して開放することで、地域の人や観光客のふれあいで密着した地域の活性化に結びついた活動を目指す。
身近な所から地域の文化資源となる竹を活かした地域再生のモデルとして、地域資源が抱えているブランド知名度やSDGｓへの課題解決を兼ねた展示会でもあるため、地域性は十分にあると考える。
展示会で実績を出すことで、先々、原料確保として竹林の整備など地域住民と連携して実施を検討しており、地域全体を巻き込む形でのアプローチとなる。
また、箸は首都圏などで専門店もあり、手に取って箸を選ぶことの体験から新たな需要への期待を望め、若年世代や国外の観光客に普及が可能。</td></tr>
<tr><td>独創性</td><td>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。</td></tr>
</table>

	40数年培ってきた試行錯誤の創作経験から、身近な竹を「表現の素材」として再定義し、菜箸や盛り付け箸、食膳箸などの用途に合わせ、季節ごと、食材に応じた使い勝手を追究した技とデザインによる用の美との融合を目指していることが特長。 しなやかで強度のある素材の特性を生かした箸に、新たな価値や美的視点を加えることで、箸の文化と食生活の愉しみを現代的に再解釈する独創的な提案。 すべて手作業で仕上げ、実際に手に取って使う人の手の大きさに合わせた長さや太さ、持ち盛りなどを体感できる創作箸の専門的な体験工房。 竹の素材感ならではの創意工夫を重ねたデザインに、手になじむ箸の心地よさ、箸先のカッテイングに工夫を凝らし、魚や素麺類など細やかな食材も食べやさで“食の愉しみ”を提供する。 竹箸を専門とする地元の作家はあまり存在しておらず、新規性・チャレンジ性は高いと考えている。
実現性	**※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。** チラシ制作などの協力体制が見込まれており、具体的な開催場所も確保されているため、実行可能性は高い。 小規模からスタートし、継続開催を通じてノウハウを蓄積しながら拡大していくことができる現実的な構築。 地域資源の竹は潤沢にあるため、必要な素材の確保は恒久的。 今までにもギャラリーで展示会を実施し、培った知見やコネクションを活用できる。 スケジュール面や関係者とのコミュニケーションも問題ない見込み。
発展性	**※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。** 展示会を継続的に開催することで、箸に関心をもつ若年世代や新たな作り手を生む土壌ができ、将来的には箸の作り手の育成と継承にもつながる。 また、箸をテーマにしたイベントやワークショップは他地域でも展開が可能で、地域文化の発信モデルとしての広がりが期待できる。 展示会の先行事例により、既に沼津内外への顧客と販路を有しているため、展示会で新規に制作する商品は、広範囲に周知と販路の展開が可能。 また、竹林の整備は地域でも課題意識を持っており、原材料となる竹の伐採は、継続的かつ多角的な創作活動を順調に進めることができる。

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または２回目の応募で、助成の継続（最大３年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

今年度の取り組みを踏まえ、箸の表現や可能性をより多面的に深めていく活動を展開していきたい。

展示会を定期的に開き、地域の人と協働して箸の新たな表現を模索するワークショップを実施するなど箸の魅力や価値について考える機会を幅広い世代に提供。

今後は地元の作家などと連携し、竹の素材を活かした匙や竹杓子などのバリエーション展開と陶器やガラスなどとの連携でブランドの付加価値と認知度の向上に取り組む予定。

これにより、伝統的な箸の文化を身近なものとして現代の生活様式の中に再認識して、新たな需要や可能性を創出していくことを目指す。

展示をはじめとする情報発信を通じて、箸の文化の継承と共に、若年層が箸に触れて体感できる場を持続的に設けることで、箸が単なる食事の道具ではなく、食の愉しみや未来に向けた文化資源として見直されることを願っている。

現在は、展示会という手段を通して地域特産品のブランド価値やSDGｓといった課題の解決に取り組んでいるが、今後は事務所を一部リフォームし、常設ギャラリーとする事業内容の拡大を検討している。

上記のような体感型の展示会を通して、箸と食文化をより直接的に感じることで、内浦地区から沼津というまちの魅力の発信に取り組むなど、新たなコミュニティを形成することが可能になると考える。

次年度以降の事業進捗に応じて、ソフト部門(ステップアップ型)や、ハード部門での助成を希望させて頂きたい。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。